

## 第7回 佐倉市におけるこれからの学校のあり方懇話会

日時	令和7年10月30日（木）午後13時30分から午後15時30分まで
場所	1号館 3階 会議室
出席者	<p>○出席委員 古賀 育委員、定野 司委員、辻 太久郎委員、石田 加奈子委員、岡島 由夏委員 以上 5名</p> <p>○事務局 緑川教育部長、宮崎教育総務課長、松丸学務課長、山本指導課長、舎人社会教育課長、塙越教育センター所長、藤崎室長、新川副主幹、伊藤主査、大野主査補、榊田主査補</p> <p>○傍聴人 5人</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"><li>・次第</li><li>・資料1 （仮称）佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針（素案）</li><li>・資料2 （仮称）佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針（素案）概要版</li></ul>
議事	① （仮称）佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針（素案）について
1 開会	
2 議事	
【議長】	<p>それでは、第7回の懇話会を始めたいと存じます。皆様大変お忙しいところありがとうございます。</p> <p>いよいよ大詰めになってきまして、基本方針の取りまとめの詰めの段階にかかっております。今日は全体として意見を出し合う会としては最後になろうかと思いますので、言い残したことのないように、いろんな方向に、もう全体にかかるとは思うのですけれども、細かいところまで目を配っていただいて、ご発言いただければと思います。</p> <p>それでは次第に沿って進行してまいります。今回は議事次第にありますように、佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針（素案）についてでございます。これについて事務局よりまずご説明をいただきます。</p>
～議事① （仮称）佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針（素案）について～	
【事務局】	
	(資料1に基づいて説明)

**【議長】**

ありがとうございます。

ご意見をいただく前に、今日ご欠席の委員から先にお預かりしたお話があるそうですので、それをご報告いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

**【事務局】**

(事務局より報告)

**【議長】**

ありがとうございます。

私たちも、まとめたものをそれぞれの立場で出しましようか。今のように、書き言葉ですと迫力があり、メッセージ性があります。大変勇気づけられるお話をいただいたと思います。

説明の最後のほうに出てきたように、すべて絡み合っていて、どれが本体と言えないようなまとまりですが、今後、子どもが減っていくという大前提の中で、学校数を減らしていく。教員数も減らざるを得ないです。再編という言葉になっていましたが、再編していかざるを得ないときに、例えば、一貫教育であるとか、統合であるとか、そしてこの懇話会の最初の方にも出てきましたが、学校そのものの更新という非常に金のかかる話が絡んでいます。子どもがいなくなるところにお金を投入するわけにはいかないので、そこが大きく関わってくるのだろうと思われます。

一方、いろいろなニーズの児童生徒への対応というのが必要になってきて、それは間に合うのかという問題があります。率直に言って、優先順位をなかなかつけがたいところが出てきます。この基本方針が、ある種の外枠になり、こう述べられていますから、それをより具体的に推進していきましょうと、それぞれの立場で方向付けるための、基礎、足場になる話だと思います。その外枠にふさわしいものを作りたいと思います。

私が思っているのは、非常に力強くまとめていただいたのですが、資料1の52ページ以降、小中一貫に関して、私の印象では説明が足りなすぎるなど感じます。前回の会議でも、現場の先生方から、小中一貫は難しい面が多すぎるのではないかというご指摘を具体的に頂いています。どちらかと言うと私の方が前のめりでしたが、そのような方向にはなっていなかつたと思います。事務局にてお考えいただいたことはそれとして、外枠ということでは、もう少し入れるべきことがあると思います。

例えば、前の方にも出てきたように、新しい教育の姿、ICTもそうですし、多様なニーズもそうですし、新しい学びの在り方のようなものがあり、それを、よりよく実現するための小中の一体化ということがあります。それから、中で触れられていますけれど、教員の働き方を改善していくという中で、一貫にすれば、働き方がよくなるのかどうか、ということが明確に出ていることが必要だと思います。例えば、校長や管理職の数が減ります。ピラミッドに近い形の学校組織になります。これは、ありだと思うのですが、それと教育課程の連動で、学校全体をスリム化して、しかし、良い教育を実現できるのか。そのような具体的なところが見えてこな

いと、一貫教育をやるために何とかしているというような感じがします。これについては、時間がないのですが、1か月くらい書面も含めた追加の審議によって決めていきたいと思います。

お気づきかもしれないですが、一貫教育で一体型の学校にした場合、制服は廃止ですよ。中学校の制服だけはあるということはあり得ないですよ、世の中的にも。これは大事なことで、市民の方はわかっているかなということがあります。これから学校の姿は大きく変わっていくと思います。

もう一つ申し上げますと、最後に出てきました中教審で、次の学習指導要領が審議中で、そろそろリークが出てくる頃です。これが出てきたときに、大きな2番

「時代の変化に対応した最適な指導・学習」というところが、より具体的な形になっていくと思います。ここについては、付帯をつけておいて、中教審並びに次期学習指導要領の内容に即してアップデートするようなことを書いておくことが、ちゃんと分かっていますというメッセージになって大事だと思います。おそらく、今、言われていることは、教育課程の弾力化ということがメインになっています。これまで国がやらなかつたことです。ガチガチに、授業時数を年間何時間と決めていて、それが教員の働き方を、ある意味固定するようなところがありました。弾力化すればそれが突破できるのかどうかということと、そのようなオリジナルの教育課程を組むのは誰なのか。どのように運用するのか。今まで、与えられた場で、教員一人一人が与えられた範囲をやっていればよかつたものが、そうではなくなってきつつあると思います。今審議中のことは、大変なことではないかと思っています。

私ども、教育養成の方でも、弾力化が入るので、教員免許を取るために必要な科目の構成や流れを、各大学が独自に編成して良いという裁量の部分が相当大きくなっています。ということは、地域や大学によって、望まれる教員像、専門性のようなものが違っていて、それに合わせて柔軟に運用していくかなければならないとなるようです。

ご意見のある方からご発言いただき、整理できるところは整理したいと思います。

### 【委員】

この資料を読んだときに、いろいろな課題があり、今まで何か月間もこの会議に参加させていただいて、希望はあるのかということを考えました。希望があるとしたら、小中一貫にするには、かなりの固定概念を覆さなければならぬこと。制服がなくなったら、髪の毛も自由になると思います。これまでの固定概念を確実に変えなければならないということです。それを、こどもたちはできても、学校側ができるのか、受け入れられるのか。そういうことでザワザワしました。人口が1億を切る、2050年頃には8900万人になる。人口が変わるということは歴史自体が変わるもの、そのくらいのレベルのことだと思います。

しかし、全国で小中一貫を行い成功しているところはあると思います。これを見て、机上ではできそうに思えますが、問題はたくさん出るだろうという感じはします。実際に小中一貫を行っているところに、現場の先生が行けば、より問題が見えてくるのかなと思います。現場の先生を連れて行かないと、本当の問題はやってみ

ないと分からぬ、というものが多くなると思います。毎日こどもたちと接している先生たちの目線で、小中一貫をリアルに体験していただく機会をつくることで、導入検討の文言が足りないというようなところが、こういう可能性があるというように広げられたら良いのかなとは思いました。

**【議長】**

現在の枠組みの中で、小中学校の交流人事のようなことは、ルール的には可能なのでしょうか。新たな規則を作らないと難しいのでしょうか。

**【事務局】**

小学校の先生が、中学校に行くということはあります。逆もあります。

**【議長】**

先程の委員のお話のように、今できる枠組みで、現場を回さないとどうしようもないことだと思います。できることは積極的に行って、数が足りないうちは大変ですが、可能だと思います。管理職もですが、特に、真ん中の人、各部門のリーダー的な先生の研修を兼ねてというのはどうでしょうか。

**【委員】**

一貫校に行く先生や、一貫校から戻ってくる先生がいて、会話ができればより良いのではないですか。

**【議長】**

皆さんいかがでしょうか。

**【委員】**

小中一貫ということで言えば、この懇話会で結論を出すということではないと思います。おっしゃるように、もう少し中身を追加して、今後の検討の素材にしらうのが良いと思います。

気になったのは、58ページに、取り組みの推進ということで表があります。小中一貫が最後にあり、導入に向けた活動体制の整備がずっと続いている。あり方とすると、体制の検討ではなく、中身の検討をもっと早くするべきではないかと思います。やる、やらないはともかく、体制を早く作って検討するというように直した方が良いと思います。

それから、学校再編でポイントなのは、私のところのように、学びの多様化ということを考えていくと、こどもや保護者に選ばれるような学校をつくるということがポイントではないかと思います。不登校というのは現象で、学校に問題があると考えると、学校をどうするのかというのはあり方のポイントではないかと思います。

そのような意味で、いろんな議論をして、こうした方が良いということはかなり出てきたと思っています。その時に、どこかに埋め込まれているのだけれど、地域

や社会に開かれた学校ということは、ずいぶん昔から言われてきましたけれど、そこなのではないかと思います。なぜかと言いますと、こどもは、いつまでもこどもではなく、社会へ出ていくわけです。その繋がりをどれだけ盛り込めるのかというところが大きいと思います。最後に、順番はともかく、コミュニティスクールとか、ただ単に組織ができて外部の方が入ってくるだけではなく、授業の展開やカリキュラムなどにも、地域の方や社会とかのつながりが、私の学校ではソーシャルスキルトレーニングと言っていますが、小中高で行っているキャリアパスポートなどに繋がってくると思います。学校の魅力、何のために勉強しているのか、社会に出てこんなことに繋がっているというところがポイントなのかなと思っています。ソフトの話です。

問題になっている老朽化とか、そのために新しい機能を入れるというのは、今がチャンスです。学校が古くなっているのだから、変えるのは今がチャンスです。今のような思想を入れていって、こどもたちに選ばれるような学校をつくろう、じゃあそれは何なのか、というところを私たちは議論してきたと思っています。ぜひ、そのところを強く出したいです。新しくなった、綺麗になったとかそういう話だけではなく、少人数指導、インクルーシブな教育、特別支援とかいろいろあり、学校の機能は今までの機能とは違うよね、というところがかなり盛り込まれたというふうに思います。

さらに言うと、それは、人もいるし、物もいるし、金もかかるし、ということは絶対出てくるわけですね。どこに書くかは別として、今までの学校で、それは本当になくてはならないものなのかということを、ここで議論した方が良いと思います。いくつか問題提起しましたが、例えば学校に一つずつプールがあることは必要なのか。12か月のうち1か月しか使わない物を後生大事に置いておくのはどうなのか。金もかかります。指導面でもなかなか難しいところがある。あるいは、私の学校では下駄箱がありません。なぜ下駄箱が必要なのかというところまで考えて、私のところでは、そのまま下駄箱をやめて、そこが本箱になり本をたくさん置くようにしました。あるいは、給食室です。学校一つ一つに給食室は必要なのか。そうであれば、どこかで作って配っても良いのではないか。昔は出来なかつたのは、保温ができなくて冷たくなるからでした。今は、そのようなことはありません。そういう一つ一つは今がチャンスだと思います。そういうところから、人、物、金がはっきり出てきて、新しい学校が早く実現できると思います。今、何が必要なのかを考えるチャンスだと思います。

もう一つだけ。どういう学校になるかということを考えましたが、逆に、学校は昼間何時間か使っているけれど、夜は空いています。施設管理運営の問題は置いといて、これはとてももったいないことです。地域に開かれたと言いますが、もっと使えるのではないかと考えると、学校以外の施設と一緒にできないかというような、ダイナミックなことも今なら考えられるかもしれませんと思います。人口減少社会、税収が減る社会は、金がないから何もできないということではなく、ピンチではあるけれど、チャンスに変えられるということをこの懇話会で話してきて、わかったところだと思います。

学校の多様化、地域に開かれたというのは、学童クラブ、放課後こども教室、地域型スポーツクラブなどをこれまでやってきましたが、もっとダイナミックにでき

ことがあるのかもしれません。佐倉市でそのような提案ができれば良いと思います。

私が統廃合に携わったのは40年くらい前です。その時は、子どもの数が減つて、今の半分になり空き教室ができたらどうするのか。5歳から学校に入れたらどうかと言う発言をしたことがあります。できなかったのは、保育園は長時間預かってくれるけれど、小学校1年生はお昼で帰されるので困るということでした。機能とはそういうものだと思います。そこまでとは言いませんが、ダイナミックに考えられるチャンスだと思います。

### 【議長】

ありがとうございます。

一貫化も含めた再編で、学校の数を整理していくときに、絶対にセットになるのは重点化です。それぞれの学校の特色がどうなのか。先程申し上げた教育課程の弾力化が実現すれば、今まで高等学校はカリキュラムによって特色を出せましたが、小中学校は無理でした。それが、うちの中学校は特に数学を短時間でいっぱいやるようにして導の重点化を図っています、というように、教科、特別支援などそれぞれのテーマに特化しているというようなことです。そうすると、再編され、通学距離が長くなることで、選択制を入れざるを得なくなります。どのようにして選択するのかというときに、メニューで選ぶことができる。先程委員がおっしゃった、選ばれる学校です。私は、以前から、教科センターを作って欲しいと言っています。例えば、サイエンスの方面に力を入れる、ICT、スポーツでも良いです。そうすると、その施設の作り方が決まってきます。また同じ校舎を造ったらどうしようもないです。

### 【委員】

うちの娘が通っている保育園は、とても特色があります。先生方の考え方、学び、子どもたちを見守る姿勢など、このような小学校があれば良いと思うところがあります。

学校の教育プログラムとかについてはわからないのですが、手を挙げたら学校になれるというような、そこはそれほど人数がいらないというような学校があったら、人気になるのではないかと思います。私の周りでは、学校に行かなければならないと思っている親は少ないようです。学校に行かないと、大人になってから苦労する、というような価値観を持たない親が増えてきていると思います。子どもがやりたいことを、本当にやらせたいと思う親も、少なからず増えてきていると思います。それをかなえる学校があるかというと、なくて、不登校になるというような流れはあると思います。人数が少ない学校を、チャレンジな学校に変えて、それがうまく行くようであれば、違う学校の編成にするとか、ベースになるかもしれないような、抜本的に考えを覆すような学校を一つ作ってみるのも良いのではないかと思っています。

**【議長】**

一つというのは、全部ではなく、できるところからやるということですね。

**【委員】**

一回やってみて、それは無理と思うことが、今では覆ることがあります。

30年前、私が20歳の頃には灰皿が必ずある職場でしたが、今はそんなことはあり得ないです。そういうことが、10年とかのレベルだから、起きるかもしれないと思います。

例えば、畑に重点を置いた小学校ができてもよいと思います。そこでも、理科も算数も必要ということで、こどもたちはその勉強をする。目的意識を持った学びをすれば、基礎的な知識が、ただただ教室に閉じこもって受け身の勉強だけではない、生きる学びのようなものになるのではないかと思います。

**【議長】**

校長先生は大変だと思います。

**【委員】**

教育課程が弾力的にということは私もニュースなどを観ていて、そうなるとそれは面白いだろうなとは思います。その一方で、好き勝手に編成できるわけではないじゃないですか。地域、保護者、子どものニーズがあります。中学校の場合は、どうしても入試があるので、例えば、うちの学校で心の教育を大切にするから、国語と数学と英語を2時間ずつ取るとなれば、多分、大反対が起きると思います。

**【議長】**

うちの子の進学をどうにかしてくれとかですね。

**【委員】**

そうです。中学校は、どちらかというと、進学、入試に縛られている部分があります。頓挫しましたが、一時期、入試制度を変えるという動きがあったじゃないですか。今回、欠席日数を書かないという話になり、これはとてもインパクトがあります。出席の価値観が変わったということです。話がずれますが、そのような、公立学校現場以外のところから、起爆剤と言いますか、インパクトを与えてもらえると、動きやすいことがあります。

とは言え、教員は一番保守的な発想を持っている人種かなとも思います。先ほどご発言のあった、制服がなくなり、髪型も自由になるというのも、学校現場としては怒る回数がその分減るので、楽になるかなと思います。実際に、髪型は何でも良いとなったときに、大丈夫なのかというのが、学校の職員としてはあります。変化することについて、恐怖心を持っているのが教員かな、とは正直思います。

### 【議長】

マイナスなことが起きたときに、責められる側ですもんね。

先ほどの入試、進学のこともそうですし、世の中の側が、次の学校に上げてくれということを最優先にしているからですね。

一方で、外部の勢いのことで言いますと、現在の中教審、安倍政権の時代から続いている、いわゆる財界主導のもので、少子化により、勤労人口が減っている中で、日本の国際競争力が減っている。使える人材がどんどん減っている。コミュニケーション能力がなく、豊かな発想力もない。日本の技術力はどこに行ったのかという話になっているときに、今回審議しているところも、どうにかしてできる人間をつくりたいという思いが溢れています。資料1の48ページ図41にギフテッドが入ってきています。左上の特異な才能のある子どものところです。これまで、これを言うことは、日本の教育界ではタブーでした。ソ連とかがやっていたものです。生まれつき凄い人のことで、特別支援と同じ発想で特別なニーズということです。逆向きのニーズです。超エリート教育をやってはいけないという発想でしたが、これを国が言い出しました。佐倉市の規模でどうにかできる話ではありませんので、言及しない方がよいとは思いますが、学校教育に対する要求のあり方が変わりつつあるとは思います。先ほど委員が話したように、ある種のチャンスといいますか、外圧は外圧で利用して、追い風にしていく方が、説得力があるのかもしれませんですね。

### 【委員】

5つの取り組みを見て、1つずつやるわけにもいかなくて同時進行でやるとすれば、やれることからやるしかないだろうと思っています。市民の立場で参加していく、ここに来て初めて知ったことがたくさんあります。財源がない、子どもがこれだけ減っている、先生が現場でどれだけ疲弊しているか、全く知らないことで、ここに来てやっと自分事になったということを体験しました。委員の話の中にありました、市民に知ってもらうことから小さく始められるのかなと思いました。

私は、まちづくりをやっているので、学校運営協議会というのに魅力、可能性を感じています。先生は疲弊している。親は学校の中のこと、先生の実情も知らないということで、文句しか出ない。中のことを知る機会ができれば、文句が手伝おうに変わるかもしれませんと思います。運営協議会がそのきっかけになるのかなと期待しています。

統合されていったら、学校の教室も空くのだろうと思い、そこを有効に活用したら良いと思いました。それはそれで、学校の先生としては怖いと思います。どのような人が入ってくるかわかりませんし、安全面をどのように守ったら良いかわからないということもあります。そのような不安も、協議会のようなところで、まちの人が何のためにそこを使って、まちにどう活かしていくかというようなことも、学校の中で話す場所をつくり、相互に交流しシェアしていくという場を作っていくといいのかなと思います。それが同時進行でまず小さく始められるのかなと思います。

**【委員】**

学校の管理運営上の問題はいろいろ出てくるので、あらかじめ、開放することを前提に造れば、ここまでエアリヤはねと仕切ることができます。新しい学校は、そうしています。以前の学校では、どうぞ使ってくださいと言っても、こどもたちがさつきまで授業をしていたところに入つてこられても、私物があるとか、困ります。そのようなところをちゃんとしなければならないと思います。それは、新しい機能として、地域に開かれた学校として造るというところを出しておかないと、造れないと思います。

**【議長】**

従来型の学校は、ある種社会に対してクローズな構造になっていますけれど、今的情勢からすると、セキュリティーはガバガバですよね。熊が出てきたらどうするのかということが、本当にありますから。人の目が全くない。それから、今はサイバー攻撃をされたら学校のシステムが壊れます。

**【委員】**

思いついたのですけれど、都内の会社では、自分の席がない、フリーアクセスじゃないですか。こどもも高校になったらそういうところがあるかもしれません、中学校では、自分の机に穴を掘るわけではないし、必要性があるのかなと思います。教科書を置いていかないと、ランドセルが重いとかはありますが。学校を作る時に、むやみに大きい学校を作らなくても良いし、居場所は必要だとは思いますが、こどもたちが常に動き回る学校というようにしたら、新しいものを造るとしても、最小限で済むのかもしれませんと思います。

**【議長】**

専門的なことを言いますと、小学校低学年、中学年、高学年と上がるにつれて、移動が多くなっていきます。最初は固定的で、自分の責任で、持ち物やエアリヤを管理しましょうというところから育てていきます。いろんなパターンがあり、徐々に授業によっては外にでるということが出てきます。中学校になると、選択も出てきて、徐々に広がっていきます。高等学校になると、学級という言葉がホームルームになり、ホーム以外は移動するというように、段々広がっていくというのが従来の発想です。今までの学校教育の文化としてあります。

他方で、欧米やアジアで進んだ教育を見ていると、机はガチャガチャです。前を向いていません。学習形態に合わせた、フリーアクセスであるとか、そこに仕込みがあり、先生が真ん中にいたりします。それも必要だと思います。おっしゃるように、安上がりになるかもしれません。従来型の授業をしようすると、戸惑いますね。

**【委員】**

そこで保守的な発想が出てしまします。自由席も是非、やってみたいとは思うのですが、一つの学級の中にいる人数が多すぎます。その中で、各担任が席を決める

ときに配慮しているのは、こども同士の人間関係です。この子とこの子が近くにいると良くないとか、この子のフォローにはこの子が近くにいた方がよい、とかいうようなことです。席によって意外と人を育てるという側面があつたりもします。その反面、日本でいじめが多いのは、席が固定しているからだという意見も聞いたことがあります。

【委員】

逃げられないでもんね。

【委員】

そうです。

【議長】

好きな子同士が寄って座る方がよいという話と、そうではない方が社会性が育つという話、どちらもあるとは思います。そういう時代でもないような気もします。

【委員】

学校全部をリニューアルするとお金がかかるけれど、半分だけリニューアルし、残りの半分は、完全にどこかに貸し出すといったことが出来れば良いかもしれません。半分は、こどもたちがフリーアクセスできるような環境にするとか、そういうことを考えられるかなと思います。全部を変えるというよりは、省エネで作り変える以外のコスト削減ができる方法かなと思います。

【議長】

若い世代の先生方に、機会を与えて、場を与えて、グリーンライト、いつでも盗墨していいよという権利を与えたときに、若い先生で、今にない発想でいろんな取り組みができるというタイプは結構いるのではないかと思います。

【委員】

そうだだと思います。実際、中高年教師は、ICTについては若手に頼っています。こんな授業をやりたいと相談すると、このようなのがあります、と。若いので、それ以上やつたらアウトというような提案もありますが、そこら辺は、ベテランがうまくコントロールする必要があります。そこは、若手の活躍の場ではあります。

【議長】

私も長年教員養成をやってきて、ここ7、8年位で潮目が変わってきたなとは感じています。「今の若い人は使えない」ばかり言っていると、先がなくなってしまいます。チャンスがあればやってくれるとは思います。

【委員】

うちは逆に若い先生が多いですね。

**【議長】**

委員の学校では、ますます決まり切ったものでは対応できないでしょうね。

**【委員】**

どんどん逃げて行っちゃいますから。生徒をどれだけ引きつけられる授業をするのかというところがポイントになります。

先日運動会をやりました。不登校のこどもは、運動会が嫌いな子が多いと思っているじゃないですか。ところが、運動会はいろいろなやり方があるので、2時間半位でやるとか、徒競走のようなものはないとか、いろんなことを入れて作りました。登校率が8割で普通の学校と同じくらいということですから、凄いことなのです。文化祭をその前にやりましたが、登校率は85パーセントでした。どういうものをやるかによって、大分違います。あれほどスポーツ嫌いの子がいるはずだったのに、体を動かすと楽しいということが段々わかってくる。そうすると、運動会は種目だねとか。企画に生徒が絡んでいます。実行委員会を作って、自分で考えさせることで考えるから、一緒にやろうよということになるわけです。そういうところに違いがあると思います。なぜ公立学校でできないかというと、伝統があるからです。最初に困ったのが、組体操でした。事件が起きて、やめると、一斉にやったことがあるのですが、ブーイングが来ました。けがは付きものだと言うのです。保護者からです。伝統はそれだけ凄いものだと思います。

**【議長】**

本当は、学校行事は教科以上に好きにできるはずです。それぞれ、教育効果を狙ってできます。一番ガチガチになっている。

**【委員】**

ガチガチですね。伝統が邪魔をしています。組み体操やめるということで、むちやくちや怒られました。それを楽しみにしている生徒もいます。生徒から直接手紙をもらいました。大切にしてきた伝統を私たちのところで途切れさせたくないという。

**【委員】**

でも、それをこどもたちが主体でそれを言ってくるのが良いですね。

**【委員】**

感動しましたね。

**【委員】**

私の時代は、校則で、男子は坊主、女子はショートカットでした。不良たちの多い学校でしたが、その時に、校則を変えたのは生徒会長でした。学校の先生というよりは、生徒会長が力を持っていてというか、どうしても髪を伸ばしたいという流れがあり、変えたのは希望でした。このようにして変えられるのだと思いました。

それまでは、言われたことをそのままやることが当たり前でしたが、そういうことができるという体験をすると、当事者意識といいますか、自分にもできるかもというような気持ちがありました。今は、校則を変えようなどとはあまり思っていないと思います。スカートの丈が決まっているとか、前髪はここまでとか、髪は結ばなければならぬとか。そのうち、なくなるとは思いますが、こどもたちからなくそうと言わないと、なかなか無くならないけれど、それどころではないと思います。中学生が一番忙しいと思うのですが、校則はあるけれど、変えられないけれど、変える気も無いというような。私の時代とは違うなという感じがします。

最近、私の娘が、受験した後に高校に行ったら、中学校では出会えない友達に出会える、むしろ、自分の考え方方に近い人と出会えるから、高校に行きたいという話をしていました。そのような考え方もあるなと思いました。

塾に行っていると、大学までを見据えた中学の入試をしてくださいと、親にも言われます。その線路に乗つたら、そのように進まなければならないという感じです。こどもたちが本当は何をしたいのかを問いただす時間はありません。

「人と知と社会をつなぐ佐倉の学校教育」の中に、リベラルアーツというか、専門分野といいますか、人間力を高める哲学のようなもの、人とは何かとか、自分はどんな志を持って生きていくのかと、大人になったら考える機会はあると思いますが、小さい頃、中学校、高校までもなかつたので、そのような時間が少しでもあれば良いと思います。佐倉市で活躍することもたちに対して、そういう哲学的な知をもうちょっと重点化すると言いますか、そういうこどもたちを集めるということではないのですけれど、そういう時間が、学校教育の中で、少しでもあると良いいなと思います。

### 【議長】

実際に、リベラルアーツ的な発想を持てる先生は凄く少ないと思います。指導力のある先生が少ないと、生徒と親の中でおっしゃるようなことを望む人は、先ほどの良い学校に行かせて欲しいと言う人より遙かに少ないとことがあります。どうするかと言いますと、重点化の一貫で、そのような学校を作ることは大いにありだと思います。

もう一つは、どうしても神経質な話ですが、教養というリベラルアーツ的なものは、親の所得水準と連動してしまいます。金持ちのこどもが有利になります。それを承知でやるという決意があれば、いくつかしかない佐倉市の学校の中で、それを割くということはありうるだろうと思います。そういう問題はあります。

### 【委員】

人間力ということは、新しい学習指導要領で散々言い尽くされています。まさにそれは絶対必要です。それを持って社会で自立していくわけですから。その時に、キャリアパスポートなる物を作ります。ところが委員がおっしゃるように、「将来何になりたいの」で終わっています。何に結びついているか、今学んでいることどう繋がるかということは、失礼になるかもしれません、ほぼやっていません。なので、うちの学校では先生だけではなく、看護学校の先生、パティエシエの先生な

どの外部の方を招いて話してもらう。そこで学んでいるこどもたちも一緒に来る。先週、看護学校の生徒たちが来ました。こどもたちと接触すると、自分は何を目指すのか、何をしたいのか、あの人はどんなところで躊躇しているのかということを肌で感じることができます。そのような経験を積んでいくことで、人間力ができるいくのかと思います。センサーは千差万別なので、気がつく子も、そうではない子もいます。でも、クラスの中に何人かそういう子がいると、引っ張られます。そうすると、全体が上がるというように見ています。

そのチャレンジは、今でもできるはずです。ただ、時間が無いとか云々でできていないというのが実態です。

### 【議長】

人間力的なことを国でやっている最大の要因はAIで、AIが万能になってくる時代に、一問一答式の知識を植え付けるだけの試験対策のようなことは、全く意味を持ちません。人間にしかできないこと、というところですね。

### 【委員】

AIにできないことは何かと考えたら、AIは失敗しないじゃないですか。私たちは失敗しないようにと教育されています。でも、失敗にヒントがあり、失敗がないと今がないということだと思います。私のこどもは、失敗を恐れて、やってもいないうにこれをやつたら怒られる、これは絶対失敗するから嫌だとかという感じです。そうならないようにと考えたときに、失敗が凄いよ、失敗をどれくらいしたかが凄いというようなことを、学校の廊下などに匿名で貼る。それを学校の教育の中で発表し合い、こんな失敗をして、こういうことを学びましたというような、そんなノートのほうがよっぽど良いのではないかと思います。経営者の話などを聞いていると、常に失敗から学ぶことしかないということを言っています。

今は、帰りの会などで、褒める、相手を認める「〇〇さんがこんなことをしてくれましたありがとうございます」というような時間があります。それを今日はこんな失敗をしたけれど、こんなことに気づきました、のように褒めるプラス次に向かう、結びつくような学びになつたら良いなと思いました。

### 【委員】

そうですね。うちの学校の特徴でもあるのですが、授業時数を少なくしていただいているので、マイタイムを設けています。今日は何をやろうとか、帰りには、今日は何をやって失敗したとか、よくできたとか、振り返る時間があります。最近始めたのですが、その中で、面白いやつを張り出しています。これは結構人気があります。うまくできた物というよりも、失敗した方が面白いです。うちのモットーはチャレンジなので、好奇心でチャレンジということです。

**【議長】**

社会全体が、失敗を許容しないといいますか、安全に行きなさいというメッセージを常に発しているのだと思います。親も先生もです。我々もやっているのかもしれません。

昨日、福岡の学校のキャリア教育のイベントでした。高校生から「自分の進路について、大人たちはやりたいことをやるべきだ。安定や相場ではなくやりたいことをやりなさいと言い、自分もそう思う。是非やりたい。一方で、失敗したらどうしよう」という自分がいることについて、「どう考えますか」という質問がありました。失敗したらどうしようという、失敗についてもう少し詳しく話して欲しいということで、安定した道、親が望む道、良い学校、良い会社に入るというようなことが一方に見えてきます。そうではない進路を取ったときに、一番彼が言っていたのは、食えなかつたらどうしよう、所得がなかつたらどうしよう。多分それがプレッシャーで、実際に見てそう言っているわけではありませんが、そう思い込んでいる生徒もそうですし、親も多いです。無難で、安全で、という。そんな正解はあるわけないです。無難や安全を取って、一流企業に行っても失敗するケースはあります。人生は一回きりしかないので、そんなものはやってみなければわからない。そのように、世の中全体が萎縮していると感じます。経済が停滞しているのと関係あるとは思います。

**【委員】**

先々週、ある町に行って、こどもたちが夢を実現するような社会を作るにはどうしたらよいかというセッションがありました。それをずっとやってきて、私が話したのは、学校では夢を描くまでをキャリアパスポートで行います。それを試すということはできません。試すという場を作ると、試しているのだから、失敗してもいいわけです。次は、失敗することを許容する文化が必要になります。

これはまちづくりにも必要だと思います。私の住んでいるまちでは、高架下を借り、こどもでも大人でも提案して、コンサートや絵の展覧会など自分で企画する。自分だけでは実現できないから、相談に乗ってくれる人がいます。そんな仕組みを去年からやっています。そのような場づくりも必要なのかもしれません。それが、学校にあればもっと良いと思います。

**【委員】**

場を作るにはひとりではできないので、人との繋がりが必要だとなれば、これを実感することになると思います。

**【議長】**

必要な知識は何かとかですね。

**【委員】**

そこの中に入っていきます。

**【議長】**

この会議で言いましたか、学校にコンビニを作ったらというのもそうですね。もつともらしい連携ではなく、地域と、実体経済と結びついた方が、そこでいくらでもトライしてみてという形になりますね。

**【委員】**

今度、地域の方に来ていただいて授業をしていただくのですが、お菓子屋さんが来てくれます。こどもたちがあんこを作ります。あんこは売っている物しか見ていませんから、どのように作るのかわかつていません。そういうところからやってみるとか、そんなこともできます。それで、地域にはお菓子屋さんがあって、あそこの裏ではこういうことをやっているのだということがわかるわけです。

**【委員】**

見学に行くのとは、違いますね。中3は忙しいかもしれないですが、中1のこどもたちに、小学校6年の算数の授業を持たせるとか。中学校の勉強は、小学校のことができていないとできないですから、ワインワインの関係でやるとか。こどもたちは、人が少ないから、一人一人活用できそうな社会で、チャンスです。

**【委員】**

不登校の経験のあるこどもが来ているので、なかなかコミュニケーションが取りづらいところがあります。おっしゃるように、学び合いというのは結構強いです。数学など、うちの学校は学力テストがないので、学力差があります。そうすると、自然に、わかる子がわからない子に教えるというところでコミュニケーションを取っています。全員ではないですけれど、そういうことができます。

**【議長】**

基本方針を作っていく上で、ここをもう少し推して欲しい、反映して欲しいという部分を指摘いただきたいと思います。最後の機会になろうかと思います。いかがでしょうか。

**【委員】**

いろんなジャンルがあって、市役所内での課の連携はあるのだろうかと思っています。これだけのことをやるときに、絶対必要だと思います。その辺を明確にして欲しいと思います。

学校運営協議会を個人的には推したいのですが、これを作つて終わりではなく、教育委員会などが入つて、見守るとか、導くとか、そういうことをしていかれるのかなということが気になっています。それはあった方がよいと感じます。

**【議長】**

他にもお気づきのことがありましたらご指摘ください。

学校運営協議会については、実効性を担保するというところが必要です。学校内に常勤するスタッフを入れないと、イベントになってしまふと思います。学校のインサイダーではないところで事務的なことをやる人が必要かとは思っています。

**【委員】**

開かれたというところは、自分も以前からやっていて、コミュニティスクールの前からそういうことが必要だと思ってやってきました。先ほど話したように、社会との繋がりや地域との繋がりがこどもたちには是非とも必要だということです。どちらかというと、学校は閉鎖的なところにあるので、それだけではない、そういう風を入れたいとやってきました。今回、そこを強調されているというのは良いと思います。

公立学校ということを考えると、私立と違い、全員を入学させて、全員を卒業させるという使命があると思います。全員という点がポイントだと思います。この学校はいやだ、選ばないという子どもも含めての全員です。だから、不登校が出てきます。どのように公立学校が変わるかというところが、これからの中学校のあり方なのではないでしょうか。選ばれる学校になる、そのためには公立学校自体の多様な、私のところの学校のようなところをたくさん作って、それで終わりということではないですよね。そうではなくて、そのようなノウハウが活かされ、公立学校が多様な子どもに対応できるようになって欲しいと思います。100パーセントではなくてもいいとは思いますけども。そのためのスタートなのではないかと思います。

文部科学省に同一学校に2課程入れたいと言って、最初は何を言っているのかと言わされました。うちのような中学校では1,015時間、でもうちでは775時間、そういうクラスを同じ学校の中に作りたい。違う方法で新しく2つ作ったのですけれど、それを認めてくれないかと言いましたが、なかなか認めてはくれませんでした。最近になって、悪くないのではとなり、だんだん制度自体も見直しで変わることにもなっています。そのような声をどんどん上げていくことだと思います。

**【議長】**

ありがとうございます。

**【委員】**

具体的に何、というものはありませんが、せっかくこういうものが市民に開かれるわけですから、あくまでも自分の立場で主張させていただくのであれば、学校現場の状況を地域の人たちに理解してもらいたいと思います。先ほど、この場に来て初めて知ったことがあるとおっしゃっていました。そういうことは、非常に心強いですし、モノも力もしない状況で、唯一あるのは、皆さんの理解、助けです。「大変ですね」という一言だけでも、全然違います。そのような感覚が、地域の皆さんに醸成されるとありがたいと思います。

**【委員】**

保護者と学校はPTAがありますが、昨今は色々なスリム化が起きています。私はPTA会長もやらせていただいているので割と学校にも行っているのですが、それで知れる情報があったり、この場に参加することなどで知ることができた情報があります。他のPTA会長はこのような情報を知らない人が多いと思います。こんな状況だということがリアルにわかることは何があるかと考えてみました。このまま見せても、文字では伝わらないと思います。佐倉市の現状をもっとかみ砕いた、動画などを使ってみてはどうかと思います。

**【委員】**

動画、面白いですね。

**【議長】**

おそらくYouTubeにアップしたら、やっつけるコメントで溢れるのではないかでしょうか。それを承知で、サポーターから適切なご意見をいただくという感じだと思います。

**【委員】**

昔は、それが大変だったかも知れませんが、今は、哲学的なものがYouTubeになって広まっていることがあります。知らない人のところまで行くきっかけになるかも知れないと思います。

**【議長】**

最初に申し上げたように、一貫教育などのところで、説明が浅いところがあるかと思います。私の方でも、1ヶ月くらいの間で、表現や文字を考えて、提案しようと思っています。

先ほどの、学校運営協議会もそうですが、実効性を担保するための人的な仕掛けのようなものが絶対いるので、そこを書いておきたいです。人的な裏付けがいるのだというくらいは書いておかないといけないなと思います。この外枠を提案し、實際には、やるところと、やらないところはその先の判断になると思います。多めに書いておいて、選んでいただくということになるかと思います。

この会を終わるときに、先ほど言いましたように、委員一人ずつのショートメッセージのようなものをいただき、どこかに貼り付け、懇話会から市民の皆さんへのメッセージとして痕跡を残したいと思います。

**【委員】**

何文字くらいにしましょうか。

**【議長】**

川柳というわけにはいきませんので、原稿用紙1枚で収めてはどうかと。  
事務局の皆様から、この機会に何かありますか。

**【事務局】**

長い間ご意見をいただきありがとうございました。本日は最後の会ということで、皆様の思いをなるべくまとめたものがこれです。大事なことは、ご意見もいただきましたが、今後、どのように知つてもらうかということだと思います。来年度からは、佐倉市の課題などを多様な手段で周知していきます。佐倉市の教育環境は、大きな転換期を迎えていると思います。みんなで、佐倉市の教育を考えて行こうということを醸成し、より良い形で進めて参りたいと思います。引き続き何かありましたら、ご協力いただければと思います。

**【議長】**

市町村レベルだと、財政規模も人的にも貧弱なので、難しい面はあると思います。逆にこの規模だから出来る、機動性を高めることができるのではないかと思います。やれることからやっていくという、今日もでたような話ですが。失敗してもよい、チャレンジでやっていければと思います。

では、今日の議事は締めさせていただきます。事務局に返します。

**【事務局】**

(次回会議の開催などについて伝達)

以上